

金山駅ランプ小屋

字金山 （所有者：北海道旅客鉄道株式会社）

明治44年建築 築107年 赤煉瓦造 面積9.93㎡

明治時代の木造客車の車内照明には、灯油ランプが使用され、夕暮れ時に停車する主要駅で係員が各客車の上にあがり、作業窓からランプを吊り下げる仕組みとなった。このランプと燃料を収納するのに使われていた小屋がランプ小屋と呼ばれるようになった。危険物を取り扱うことから堅牢で耐火性に富む煉瓦造りとなっており、明治時代に建設された旧国鉄時代の主要駅には、一般的に存在したが、用途の消滅や駅の増改築に伴い急速に消滅し、北海道に残っているのは、金山駅の他に山部駅しかなく、本町で現存する最も古い建造物となっている。



